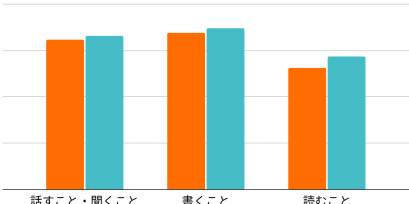
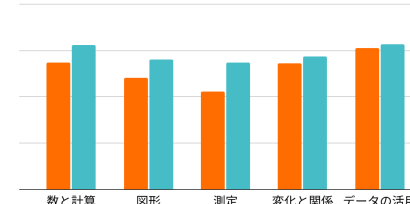
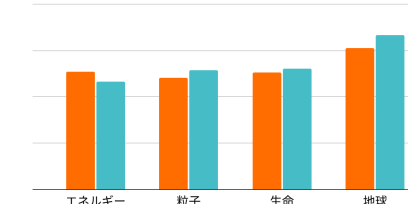


令和7年度全国学力・学習状況調査の結果における校内分析から見た本校児童の様子

帯広市立豊成小学校 校長 野中 利晃

1 実施日
令和7年4月17日（児童質問 4月23日）

2 児童の実態（令和7年度全国学力・学習状況調査結果より）
（1）各教科の概要（○：成果 ▲：課題）

①国語科	②算数科	③理科
<div><p>領域別正答率の状況</p><p>○学習指導要領の内容「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国の平均正答率を上回っています。</p><p>○学習指導要領の内容「思考力・判断力・表現力等」においては、3つの領域の中で「話すこと」の正答率が高いです。</p><p>▲国語科全体の平均正答率は全国の平均正答率を下回っています。</p><p>▲学習指導要領の内容「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」の領域において、条件を満たしながら自分の考えを書くことに課題が見られます。</p></div>	<div><p>領域別平均正答率の状況</p><p>○学習指導要領の5つの領域の中で、「データの活用」の正答率が高く、全国平均と同等の正答率となっています。</p><p>○問題形式が記述式の設問において、全国平均正答率を下回るものの、無回答が大幅に少なく、粘り強く問題に取り組もうとする姿勢が見られます。</p><p>▲算数科全体の平均正答率は全国の平均正答率を下回っています。</p><p>▲学習指導要領の領域「数と計算」の「知識・技能」において、小数・分数の加減やはかりの読み取りなど、既習内容の定着に課題が見られます。</p></div>	<div><p>領域別平均正答率の状況</p><p>○学習指導要領のA区分「エネルギー」の領域で全国平均正答率を上回っています。</p><p>○顕微鏡の適切な扱い方や、電気回路の仕組みなど実験による技能が身に付いているかを問う設問について正答率が高く出ています。</p><p>▲理科全体の平均正答率は全国の平均正答率を下回っています。</p><p>▲学習指導要領の内容「思考力・判断力・表現力」において、差異点や共通点を基に、新たな疑問を見出すことに課題が見られます。</p></div>
<div><p>【今後に向けて】</p><ul style="list-style-type: none">・文章の構成を整理することがよくできていました。授業における文章を構造的に読み取る活動等により力を付けていることがうかがえますので、今後も大事に取り扱っていきます。・一方で、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるようにするための書き表し方に課題があります。国語を含めた各教科の振り返り等で、条件や目的を意識して書く場面を意図的に設定し、丁寧な個への働きかけを重ね、資質能力の向上を図っていきます。</div>	<div><p>【今後に向けて】</p><ul style="list-style-type: none">・日常の事象について、目的に応じて表やデータの特徴を捉え考察することがよくできていました。児童質問でも、算数を日常生活に活用していると回答した児童が多く、今後も日常事象との結び付けを大事に取り扱っていきます。・一方で、数の概念や図形の構成についての知識の定着に課題が見られました。中学数学への基盤として重要な領域です。主体的に計算の仕方を思考し表現する場面を取り入れたり、ICTを活用した図形の観察や操作を行ったりするなど、確実な定着を図っていきます。</div>	<div><p>【今後に向けて】</p><ul style="list-style-type: none">・日常の授業において、実験・観察を丁寧に行っていることから、技能が身に付いていることがうかがえます。児童質問においても「理科の授業では、観察や実験をよく行っている」の設問で全国平均を大きく上回っており、今後も丁寧な授業づくりを継続し、力を伸ばしていきます。・実験や観察に熱心に向かう一方で、学びを概念として定着させ、日常生活に活かすことに課題があります。理科の問題に対して答えがどのようになるのか仮説を立てたり、結果から考察したりする活動を重視して取り扱っていきます。</div>

（2）児童質問（○：全国と比べよい傾向が見られた項目 ▲：改善を図っていく必要がある項目）

【生活面】	
○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	▲自分にはよいところがあると思う。
○人の役に立つ人間になりたいと思う。	▲困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	▲友人関係に満足している。
【学習面】	
○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。	▲算数の勉強が好きである。
○5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を利用する学習を頻繁に行っている。	▲算数の授業の内容がよくわかる。
○学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができている。	▲一日当たり学校の授業以外にどれくらい勉強しているか。
【今後に向けて】	
・いじめについて、これまでの学校生活を通して、自分事として考える力が身に付いています。日常生活の中でも、最高学年にふさわしく、人を思いやる気持ちを大切にしながら過ごしている様子がうかがえます。	
・全国に比して、人の役に立ちたい、地域や社会をよくするために何かしたいという思いをもつ児童が多く、6年間を通じて進めているキャリア教育の積み重ねが表れていると考えます。	
・一方で、友人関係に不安を感じたり、悩みを大人に相談できずじまいする児童がいます。児童の心に寄り添う温かい指導を丁寧に続けていく必要があります。	
・学習面に目を向けると、「算数の学習は将来社会に出たときに役に立つものだ」と感じているものの、「算数の勉強が好き」「授業の内容がよくわかる」の項目についてネガティブな回答が見られました。児童自身が「できた、わかった、面白い」と感じることでできる1時間を積み重ね、成長を実感させながら中学校へつなげることができるように努めています。	
・タブレットを活用する学習が定着しており、文房具や辞書のようなアイテムの一つとして扱うことができています。今後はさらに、主体的に活用場面を選択し、探究や自己表現に活かしていくことができる児童を育てていきたいと考えます。	
・授業以外での学習時間、また読書時間（新聞を含む）については、全国を下回る結果となっています。ゲームやスマホなどを置いて、興味のある学習に打ち込んだり、読書のよさ感じたりすることも重要です。ご家庭の協力も得ながら、学習習慣の確立と読書の大切さを繰り返し指導していききたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひします。	